

若手眼科医の研究がコンタクトレンズの未来をつくる
第1回『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』
受賞者決定

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニー(本社:東京都千代田区、代表取締役 プレジデント:デイビッド・R・スミス)が主催する、第1回『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』の受賞者が下記のとおり決定いたしました。

『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』は、コンタクトレンズに関連する眼科領域の研究と、それに携わる若手眼科医の支援を目的に2011年に創設されました。第1回目となる今回、全国の若手眼科医より多数の応募があり、木下茂先生(京都府立医科大学教授)をはじめとする医学専門家によって構成される選考委員会での厳正な審査の結果、2名の受賞者が選ばれました。

2011年10月7日(金)に実施された第65回日本臨床眼科学会共催セミナーでは、授賞式および受賞記念講演がおこなわれ、授賞式にて、本賞および記念品の贈呈と、受賞者のお二人が所属する研究機関に来年度以降の研究を助成するための奨学寄付金が授与されました。

ジョンソン・エンド・ジョンソンは、眼の健康を考えた使い捨てコンタクトレンズの提供とともに、『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』を通じて、コンタクトレンズに関連する眼科学の発展に寄与することを目指して参ります。なお、2011年4月1日から2011年12月31日までに発表された論文を対象とした、第2回『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』の募集もスタートしています。

【第1回ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード 受賞者】

■ ^{みむら たつや}三村 達哉 先生 (東京大学)

《受賞論文》

‘Contact Lens-induced Subconjunctival Hemorrhage’ American Journal of Ophthalmology

■ ^{すずき たかし}鈴木 崇 先生 (愛媛大学)

《受賞論文》

‘in vitro Antimicrobial Activity Teichoic Acid Biosynthesis Inhibitors against Staphylococcus aureus Isolates’ Antimicrobial Agents and Chemotherapy



【下段左から】デイビッド・R・スミス、鈴木 崇先生、三村 達哉先生、木下 茂先生(選考委員長)
【上段左から】選考委員:西田 幸二先生、大橋 裕一先生、天野 史郎先生、坪田 一男先生

【第1回『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』受賞者のコメント】

■ みむら たつや **三村 達哉 先生（東京大学）**

《受賞のコメント》

この度は大変名誉ある賞を授与していただきまして有難うございました。本研究ではハードコンタクトレンズ(CL)と比較してソフトCLでは結膜弛緩症や瞼裂斑を起こしにくいことを証明しました。今後はCL装用者や医療従事者に情報を発信できるような研究をさらに進めていきたいと考えております。この受賞を支えとしてこれからも精進していくつもりですので、どうか今後ともご指導ご厚誼のほどよろしくお願い申し上げます。



■ すずき たかし **鈴木 崇 先生（愛媛大学）**

《受賞のコメント》

この度は第1回『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』受賞という光栄にあずかり、大変うれしく思っております。私は、コンタクトレンズ関連角膜炎の発症メカニズムに着目し、研究を行ってきました。今後も病原体とコンタクトレンズの関係を解明し、コンタクトレンズ関連角膜炎の予防に尽力したいと思っております。



【第1回『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』選考委員長のコメント】

選考委員長：きのした しげる **木下 茂 先生（京都府立医科大学）**

コンタクトレンズは、屈折矯正の手段のひとつとして必須のものであり、さらに角膜疾患の治療など屈折矯正以外の目的にも使用され、眼科医療において非常に重要な位置を占めています。コンタクトレンズが眼に接触するものである以上、安全かつ快適に装用できることが前提ですが、それには解決すべき多くの課題もあります。しかし、コンタクトレンズに新しい概念を導入することにより、その可能性はますます広がっていくように思われます。コンタクトレンズそしてその装用に関わる研究、特に基盤的な研究を積極的におこなう眼科医の数は少ないため、この分野に精通した研究者を一人でも多く発掘したいと考えます。

この度、コンタクトレンズ研究をおこなう眼科医を支援するために、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニーが『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』を立ち上げました。このアワードの選考では応募された論文について5名の選考委員があらかじめ詳細な検討をおこない、選考委員会で各自の評価を公開して、さまざまな視点から関連に議論しました。それによって、アワードの趣旨に沿った非常に公正な判断ができたと考えています。受賞者には今後のコンタクトレンズ関連分野の研究を積極的にリードしていただきたいと思っています。

■ 第2回『ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード』募集要項

- 概要 : 2011年4月1日～2011年12月31日に発表されたコンタクトレンズに関連する眼科領域の論文を審査対象とする。選考のうえ優秀な研究業績をおさめた最大2名の眼科医に本賞および記念品を贈呈。さらに、受賞者が所属する研究機関に次年度以降の眼科領域の研究に対し250万円を上限とする研究助成金を授与。
- 応募資格 : 日本在住のコンタクトレンズ研究に熱意をもつ国内の大学またはそれに準ずる研究機関に属する眼科医とし、企業のもの除く。応募締切時点で40歳以下であることとする。
- 応募方法 : 所定の応募用紙(弊社事務局にご請求ください)に必要事項を記入し、論文、およびコンタクトレンズ研究に対する今後の抱負と、所属長の推薦状を添えて事務局に送付。
- 応募締切 : 2012年2月29日(当日必着)
- 選考 : 受賞者は選考委員会における審査のうえ決定。
選考委員長 木下 茂 先生 (京都府立医科大学 眼科学教授)
選考委員 天野 史郎 先生 (東京大学医学部 眼科学教授)
大橋 裕一 先生 (愛媛大学医学部 眼科学教授)
坪田 一男 先生 (慶應義塾大学医学部 眼科学教授)
西田 幸二 先生 (大阪大学医学部 眼科学教授) ※五十音順
- 審査結果・発表 : 受賞者および所属長宛に通知するとともに、弊社ウェブサイトにて発表。
2012年日本臨床眼科学会共催セミナーにおいて受賞者による記念講演。
- 応募・お問合わせ先 : ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード事務局
電話:03-3508-1231 ※受付時間・平日9:30～17:30(土日祝日 休み)
FAX:03-3508-1709
メール:jj-clra@convention.co.jp

<ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーについて>

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーは、1991年に世界初の使い捨てコンタクトレンズ「アキュビュー」を日本に導入して以来、常に使い捨てコンタクトレンズ市場をリードし続けてきました。現在、様々なユーザーのニーズにお応えするため、12種類のタイプの異なる使い捨てコンタクトレンズをラインアップしています。